

個人質問

安心して住み続けることができるまちづくりを

日本共産党

右山 正美



高齢者対策について

問 介護保険制度の充実について伺う。

2012年介護保険制度改定について伺う。利用者の保険料の引き上げや軽度者の保険給付外しなど、大幅負担増を検討しているが市長はどのように考えるか。

市長

今後とも国の動向に注視し、真に必要な介護サービスの提供をしたいと考えます。

問

5%の引き上げが行われ、「高すぎて払えない」という市民の生活を困難にしている。サービスを受けても自己負担が大きくなりサービスを思いとどまっている人もいる。低所得者・滞納世帯への救済対策がないのは弱者切り捨てとしか言わざるをえない。

市長

現行制度においても所得の低い方に対して制度的配慮がされ

ていると考えております。

問

一人暮らし・高齢者世帯の支援について伺う。高齢者が安心して暮らすために、訪問活動を充実させるために正規職員の配置を求めるが如何か。

市長

ボランティアや民間団体等の協力を得ながら高齢者支援の充実を進めたいと考えます。

安心・安全なまちづくり

問

道路整備・歩道設置について伺う。

日本共産党の市政アンケートには、道路・側溝の整備65・1%、歩道整備70%と市民の多くの声が寄せられており、今後4年間の整備計画は如何か。

市長

市内の道路状況を精査し、優先順位を付け、中長期的ななかで、歩道設置及び舗装修繕に取り組みたいと考えます。

問

側溝は雨風などで詰まりやすく、定期的な側

溝清掃を求めるが如何か。

市長

優先順位を決め緊急性の高い箇所から随時実施してまいります。

問

市民の安全・財産を守るため、冠水箇所の早急な対策を求めるが如何か。

市長

今年度も15カ所の工事を計画しております。

問

信号機の設置について伺う。特に、西林吉野宅脇、追分台コンビニ脇、東吉田集会所前の信号機設置、朝陽小学校脇の交差点は安全指導員などの配置を

市長

求めるが如何か。今後引き続き佐倉警察署を通じ、県警本部と協議していききたいと考えます。

問

ミニ団地では、未舗装、排水など住環境悪化の問題を抱えている。私道の舗装助成を求めるが如何か。

市長

ミニ団地内の舗装についての助成は考え

個人質問

市民のいのち・くらし第一の国保に

日本共産党

丸山 わき子



国保運営の改善と予防医療の強化について

問

年間所得200万円以下の滞納世帯は67・4%。そのなかで、資格証明書の発行は84%。払いたくても払えない世帯への制裁措置を引き続き実施するの如何か。

市長

公平性を確保するため、引き続き実施いたします。

問

日本共産党が実施した市民アンケートでは、6割強の市民が国保税の引き下げを求めている。市長が議員であった平成16年、国保税の引き上げに賛成し、所得のない世帯にまで課税強化したことが、収納率を一層悪化させ国保行政を危機的状況に追い込んだその責任は重大です。

市長

早急に負担割合を改正する考えはございません。

予防医療の強化について伺う。

問

日本共産党は、早期発見・早期治療の予防医療の充実を求め、早くから人間ドックへの助成を求めているが早期実施とともに、誰もがお金の心配なく検診を受けられるよう無料化を求めるが如何か。

市長

短期人間ドックの助成を実施の方角で検討してまいりたいと考えます。各検診の無料化については、本市の財政事情に鑑み、受益者負担としているところですので。

快適・安全な街づくりについて

問

榎戸駅の早期整備について伺う。利用者の悲願となっている東口開設、1日も早い階段の改修・バリアフリーの対応について計画は如何か。

市長

バリアフリー化問題と東口開設を一体のものとして、引

き続きJR千葉支社と交渉、協議を行ってまいります。

問

踏切の改善について伺う。

この間、踏切の拡幅の要望に対し、市当局は「JRから踏切を拡幅したら、近隣の踏切を閉めるよう言われている」と答弁し、踏切の改修は困難であるとしてきた。しかし、国土交通省は平成13年、「踏切道の統廃合を行わずに実施できる」とした指針を出しており、榎戸駅脇・農協脇の踏切拡幅、大変危険な新水川踏切

市長

の改善を求めるが如何か。踏切拡幅に係る経費は全額市の負担となり、現在、実施している路線の改良工事が終了してからでないと手がけることは難しい状況です。

また新水川踏切は、市道102号線と近接しているため、車の待機スペースが確保できないなど特殊な事情があり、抜本的な安全対